

緑樹

3月号

発行者
清川村立緑中学校
小島 一浩
所在地
清川村煤ヶ谷 1933
Tel 046-288-1241
ホームページアドレス
<http://www.kiyokawa-edu.jp/sch/midori-jhs/>

感謝の心を伝える卒業式に！

校長 小島一浩

春のおとずれを感じさせる爽やかな季節となりました。平成二十八年度もいよいよ締めくくりとなりましたが、保護者・地域の皆様方にはこの一年間、本校の教育活動にご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。教職員一同感謝申し上げます。

さて、学校における一年を振り返り、切にできる生徒「新たなことに勇気を持って挑戦し、柔軟に対応できる生徒」を掲げ、子どもたちの行事や日々の活動の様々な取組の中で、各学年とも生徒たちの着実な成長の過程を見ることができました。「伝え合い・認め合い」では、先生方も授業の中で意識し、相手の意見を大切にしたりした授業に取

り組んできております。また、体育大会や文化発表会等の学校行事では、三年生がリーダーシップをとり、新たな取り組みを取り入れながら緑中の伝統を引き継ぎ大いに活躍してくれました。その三年生も、三月十日(金)にいよいよ卒業式を迎えます。緑中学校で培った自信と誇りを胸に刻み、輝く明日に向かって巣立っていく姿を楽しみにしています。また、三年生にとって卒業式は、中学校課程の修了であるとともに、義務教育九年間の修了でもあります。これまでお世話になった家族や友人、地域の方々、先生方、そして関わりをいただいた方々に対する感謝の心を伝え、卒業生と在校生が心をつなげて、いままで学んだ総決算としての『有終の美』を飾るすばらしい卒業式になることを期待しています。また、一・二年生も三月はまとめの

ますと、めざす生徒像として「伝え合い、認め合い、自分も周りも大切にできる生徒」

また、体育大会や文化発表会等の学校行事では、三年生がリーダーシップをとり、新たな取り組みを取り入れながら緑中の伝統を引き継ぎ大いに活躍してくれました。その三年生も、三月十日(金)にいよいよ卒業式を迎えます。緑中学校で培った自信と誇りを胸に刻み、輝く明日に向かって巣立っていく姿を楽しみにしています。また、三年生にとって卒業式は、中学校課程の修了であるとともに、義務教育九年間の修了でもあります。これまでお世話になった家族や友人、地域の方々、先生方、そして関わりをいただいた方々に対する感謝の心を伝え、卒業生と在校生が心をつなげて、いままで学んだ総決算としての『有終の美』を飾るすばらしい卒業式になることを期待しています。また、一・二年生も三月はまとめの

新入生授業体験・部活動見学

一月二十三日(月)に、緑小学校の六年生二十名が本校を訪れました。六校時に一・二年生の授業を参観し、英語の授業を体験しました。一年生の授業は社会で、南アメリカ州についての学習でしたが、南米のスポーツや食べ物、観光地等は、六年生の皆さんにも聞き覚えがあり、馴染みやすかったようです。一方、二年生の授業は数学で、平行四辺形の性質についての学習でしたが、少し難しかったという感想が聞かれました。



次に中学校で本格的に学習する英語の授業を体験しました。最初に全員が英語で自己紹介をしました。小学校での練習の成果が見られ、自分の名前と好きな物をスムーズに発表できていました。この日の授業のテーマは数詞で、二十までの数を学習しました。先生の言った英語の計算問題を一人ずつ聞き取ってグループのメンバーに伝え、計算して正しい答えを出すことができました。二十までの数字は小学校でも練習



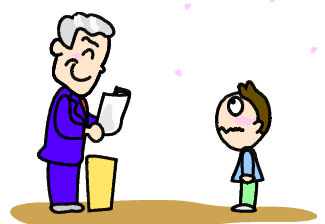
張り切って活動を披露し、小学生も羨望のまなざしで見学していました。どの授業や活動も、思っていたより先生との対話が多いので、親しみやすかったという感想があり、少しでも入学に対する不安解消になっていければ嬉しいです。

していらしく、楽しくゲームに参加できたようです。最後に、最も楽しみにしている部活動を見学しました。寒い中でしたが、中学生も張り切って活動を披露し、小学生も羨望のまなざしで見学していました。どの授業や活動も、思っていたより先生との対話が多いので、親しみやすかったという感想があり、少しでも入学に対する不安解消になっていければ嬉しいです。

一学年職業調べ発表会

時期になります。中学生としての自分自身の姿をもう一度振り返り、改めるべきところは改め、成長したところは自信を持って、4月からの新年度に備える準備をし、素晴らしい上級生となれるよう頑張ってもらいと思います。

一学年では、「総合的な学習の時間」を使い、一学期から「職業調べ」を行ってきました。この調べ学習において自分の生き方について考え、生涯を通じて学ぶ力を培い、社会に貢献できる人間性を養うことを目標としています。文化発表会では調べたことを新聞にまとめ、掲示することと多くの保護者の方にもご覧いただきましたが、同じ内容を今度はパワーポイントのスライド形式で二月一日(水)に発表しました。小学校でパソコンの扱い方を習得していたこともあり、スライドづくりは、工夫を凝らした作品が多くありました。発表の技量という点では、まだ課題もありましたが、一人ひとり自分の将来について考える様子が見られました。



中学校文化連盟芸術祭
展示部門発表会

アミューあつぎで、一月十九〜二十日に美術科部会、一月二十六〜三十一日に技術・家庭科部会、特別支援学級部会の厚木愛甲地区中学校文化連盟芸術祭の展示発表会が行われました。厚木・愛甲地区十八校の作品が展示され、会場を華やかに飾りました。各校の特色ある授業の取り組みが感じられる発表会となりました。



表彰

第五十回神奈川県中学校美術展で、坂井七帆さんの作品が三百七十一点中の二十点に選ばれ、「会長賞」に輝きました。本校の学校朝会でも表彰披露がなされました。鮮やかな色使いや繊細なタッチ、動きのある構図が評価をうけました。



命の授業

一月三十一日(火)に、日本赤十字社の五十嵐奈菜様を講師にお招きして、「いのちの授業」が行われました。緑中では、道徳の授業の環として、自分だけでなく周りのもののいのちの大切さを理解し、充実した生き方を求める心を育てるために毎年行われています。日本赤十字社は

生命・健康を大切にし、人や社会に奉仕することを目標としており、困っている人々がいたら



世界各地に足を運び、救援活動を行っています。世界では様々な問題が起こっていますが、その犠牲者のほとんどが一般市民であることがわかりました。中でも戦争や紛争の犠牲者の、八割〜九割は一般市民であることは生徒達にとっても衝撃が大きいです。また現在の置き換えて考えていたよ本では、自然災害で毎年多くの犠牲者が発生しています。日本赤十字の方々はこのような時も人命救助に尽力している様子を知り、自

分も何かしたい、できることがあると感じた生徒もいたようです。この授業の後、各クラスに戻って命についての作文を書きました。何を書こうか迷っている生徒もいましたが、書き始めると自分の中の「いのち」に対する思いに火が付き、スラスラとえんぴつを走らせていきました。人の「いのち」のためにかした何かしらの気持ちや大切に育みたいと思



図書の出冊数 年間表彰

1年生	☆合計	201冊	*1人あたり8.4冊
	第1位	工藤ひなた・笹原和菜	(51冊)
	第2位	坂井七帆	(19冊)
	第3位	佐藤千菜	(16冊)
2年生	☆合計	138冊	*1人当たり8.1冊
	第1位	矢田部和也	(36冊)
	第2位	澁谷明穂	(34冊)
	第3位	平田愛奈	(31冊)
3年生	☆合計	233冊	*1人あたり8.3冊
	第1位	田中伊織	(78冊)
	第2位	砂川愛	(40冊)
	第3位	山内琳子	(25冊)

ソーシャルスキル学習
相手も自分も尊重しよう

道徳教育の一環として、一月三十日に一・二年生、二月六日に三年生でソーシャルスキル学習を行いました。この学習は相手を受け入れ、人との相互理解を深めていこうとする気持ちや態度を養うことを目的とし、毎年行っているものです。今年度は、一・二年生はスクールカウンセラーの大田先生、三年生は担任が中心となり、授業を行いました。一年生では、「宇宙空間で思わぬところに不時着！必要なものは？」というテーマで話し合いを行いました。宇宙空間という設定もあり、奇想天外な意見もさ

まざま飛び交いましたが、どのグループも授業のねらいをよく意識し、お互いの意見を尊重して話を進めることができました。二年生では、「あれこれ討論」を行いました。二つの選択肢から一つを選び、周りの人を自分の意見に引き込むように意見を発表します。「タケコプターとどこでもドアのどちらが欲しいか」などのお題で話し合い、相手の意見を尊重しながらも自分の考えを伝える難しさを改めて感じることができました。三年生では卒業を前にして、思い出を振り返り、感謝をことばにする時間をとりました。長い時間を共に過ごした級友への感謝の気持ちを強く意識する時間となりました。



★三月の予定

- 一日(水) 学校朝会
- 二日(木) 学級専門委員会
- 八日(水) 卒業証書授与式予行・三年生を送る会
- 十日(金) 卒業証書授与式
- 二十一日(火) 生徒会結団式・球技大会・給食終了
- 二十三日(木) 大掃除
- 二十四日(金) 修了式